

兵庫県保険医協会

但馬支部ニュース

No. 184

2026年2月15日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660 谷垣医院
TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

会員インタビュー「但馬の息吹」～和田陽介先生（豊岡市）の巻～

「患者さん本位の訪問診療を目指したい」

在宅・リハ専門医としての特性を活かして

但馬の地に根差して診療されている会員へのインタビューコーナー『但馬の息吹』。今回は2024年12月に開業された、あかつきホームケアクリニック（豊岡市泉町）の和田陽介先生を、藤井高雄副支部長（ろっぽう診療所 / 豊岡市今森）が訪ねた。



和田陽介先生（写真左）に藤井高雄副支部長（写真右）が地域医療にかける思いを伺った

藤井：和田先生には、ろっぽう診療所（以下：ろっぽう）に研修医として来ていただいたり、最終的には所長をお務めいただくなど大変お世話になりました。ご出身は三田市でしたよね。

和田：はい。三田学園高校から山口大学医学部に進み、卒後は兵庫民医連の尼崎
(2面へ続く)

（1面から続く）

医療生協病院での研修医からのスタートでした。

藤井：2004年の台風23号による円山川の氾濫で、ろっぽうの1階がほぼ浸水して大きなダメージを受けました。翌年に診療所を復旧していく上で、和田先生には重要な役割を担っていただきました。その折は、熱を出されても点滴しながら診療されていたというエピソードが残っていますが…。



「ろっぽう診療所での経験が地域医療を志す原点に」と和田先生

和田：下痢・嘔吐が激しくて点滴しながら診療したことを思い出します(笑)。でも、ろっぽうでの経験は、その後の医師人生にも大きな影響がありました。尼崎医療生協病院では内科病棟しか担当していない状態で、研修医3年目の途中でろっぽうに赴任し、経験のない訪問診療で戸惑うことばかりでした。脳卒中の方など、投薬しようにも、そもそも元気がなくて食事が摂れない…など投薬以前の状態がほとんどという感じでした。その当時の自分には、対応力が全然なかったですね。

藤井：地域医療・プライマリケアを目指す上での問題意識がその時点で既におありだったのですね。

和田：内科的知識だけでなく、もっと幅広く患者さんにアドバイスできるような医師にならないと地域医療ではやっていけないな…と痛感しまして、在宅リハビリテーションが自分の課題かなと思い至りました。

リハビリテーションと総合診療科、両方を学ぶ

藤井：リハビリと言えば静岡県で研修されていた時期はいかがでしたか？それぞれの病院で特色はあると思いますが…。

和田：どの病院でも得るものは大きかったですが、やはり一番は、嚥下障害治療の有名な聖隷三方原病院での研修でしょうか。嚥下障害治療のシステムが構築されていて、検査後のリハビリの進め方や、嚥下食のことなど、系統的に学べたことが一番の収穫と思います。その後、浜松市リハビリテーション病院に移りまして回復期リハビリを学び、兵庫に戻って、県立総合リハビリテーションセン

（3面へ続く）

（2面から続く）

ター中央病院では“患者さんの生活をなんとか改善しよう”という熱意や“そこまでやるか”と思うような医療者の姿勢が一番勉強になりました。しっかりと時間と熱量をかけて勉強しないとわからないものもありますね。

藤井：その後、兵庫医大に籍を置かれてリハビリテーションに関する博士号を取得されました。

和田：はい。ささやま医療センターでフ

レイルの調査を行い、そのデータを使ってTUG（Timed Up & Go Test/椅子から立ち上がり3m歩いて方向転換し、再び座るまでにかかる時間を計測）の結果が、体やフレイルの具合などにどう関係するか…というテーマの論文を執筆し、博士号を取得しました。

藤井：その後の仕事の状態はいかがでしたか？

和田：2020年から移った総合診療科では、私も指導医的な立場になり、若い研修医が常に回ってきては、ほんの1、2カ月でどんどん入れ替わっていくので、その管理業務に手を取られて…。また、それまでリハ中心だったので、「逆に今の自分はあまり内科のことがわかっていないぞ」と勉強で一番苦労した時期でした。また、私は地域医療やプライマリケアがやりたくて、ささやま医療センターに行っていました。大学の分院なので、臓器別専門医の多くは“あくまでカリキュラムに沿って派遣されてきている”という意識で、自分とのギャップは大きかったですね。総合診療はいろんな領域をカバーしていますので、中には「臓器別だけではダメだ」と感じ取って、本院に帰っていく医師もいましたが、何となくこなして帰る人も多かったのでは…と思います。



「自分の専門性を活かすためには在宅クリニックが最適」と和田先生（左）

開業に至った経緯と開業後の想い

藤井：地域医療・プライマリケアへの思いは変わらず持つておられたと。その後、ろっぼうの所長を経て地元の三田市ではなく、豊岡市での開業を決意されました。

和田：通常の外来中心のクリニックを当初考えていたのですけれど、人口減の中

（4面へ続く）

（3面から続く）

で経営がたちゆくのか心配があったのと、何より自分のリハを中心とした専門性を活かすためには、在宅に特化したクリニックが一番では…と考えました。初期投資も比較的少なくてすみますしね。また、豊岡市は在宅医療の担い手が明らかに足りないのは、ろっぽうにいてわかっていましたし、医療体制的な環境としては、いざという時のバックアップに豊岡病院があるので、やはり豊岡がいいかな…と。



充分な採光の明るい院内

藤井：ご開業後1年あまりで、既に100人もの在宅患者さんを診ておられるとか？

和田：ええ。豊岡市街地を中心に、城崎、出石、日高などを回っています。

藤井：ご専門の在宅リハについて教えてください。

和田：訪問診療では、かかりつけ医として疾患管理を行うことは当然として、それに加えて動作能力や嚥下機能、ADLの評価などを行うようにしています。聴診器をあてるだけでなく、神経学的所見をとり生活環境や介護者の様子まで気を配るというイメージです。私がこうした評価を行った上で、必要な方には自院で訪問リハビリテーションや訪問栄養指導を提供しています。もちろん他の事業所との連携も重視しています。

藤井：発熱、歩行障害、嚥下障害、緩和ケアなど外来診療にも特徴がありますよね。

和田：訪問診療に時間を割くため、外来診療は特定の内容に限定して行っています。発熱外来とその他の専門外来です。発熱外来は、コロナ禍の最中に“発熱したときに診てもらえる医療機関を探すのが大変”という声を聞いていましたので、少しでも地域に貢献できればという思いで開設しました。専門外来は“将来的に訪問診療をしてほしいが今は通院ができる”という方を対象としています。

藤井：入院の受け皿としての地域の病院事情はいかがでしょう。

和田：豊岡は療養型病床がないので、他地域であれば、入院でもおかしくないような重症な方が自宅や施設にいらっしゃる場合が多いですね。そこを支えていけないといけないので、なおさら手間がかかるという循環になっていると思います。

藤井：和田先生のような在宅専門医の先生の果たす役割は大きいですね。

和田：神経難病とかガン末期の方は、かかりつけ医であっても最期まで外来で診
（5面へ続く）

（4面から続く）

てあげるのはなかなか難しくなってきましたし、在宅医が依然として少ないので当院に集中しているのかも知れません。ただ、但馬の患者さんやご家族のやさしさに支えられていますね。困難は多いですが、やりがいも感じています。

藤井：先々医師複数体制も考えておられますか？



在宅医不足を指摘する藤井副支部長

和田：悩むところですね。医師2人でペ

イするほどの件数はないですが、医師1人体制の厳しさも否定できないですよ。都合よくパートで少しだけ来ていただけるような先生がおられたら助かりますが。

藤井：開業医の高齢化もありますが、在宅医療を手掛ける先生がもうちょっと増えなければなりませんね。若い先生方が但馬の様な過疎地域に入っていけるような環境整備のためには何が必要と思われませんか？

和田：都市部の開業も難しい面は多くなってきていますし、そもそも但馬の医療には困難もある反面、魅力もありますので「県北部で診療してみたい」という先生は潜在的にはおられるとは思いますが。しかし、ご子弟の教育環境とかそういう医療以外の要素も大きいような気がしますね。

支部総会企画で話題提供を予定

藤井：3月7日（土）の但馬支部総会記念企画（6面参照）では、「リハ専門医が在宅医療を始めたら…」のテーマで話題提供いただきます。

和田：はい。先程も申しましたが、在宅での食支援にも関心がありまして、管理栄養士を雇用して但馬では珍しい訪問栄養指導に力を入れています。ご自身が「普通に食べていますよ」と仰っていても加齢とともに知らない間に食べる量が減っている例も多く、他の疾患の治療にも影響が大きいと思います。患者さんやご家族の方の意識もちょうと変えていただきたい部分もあります。企画では歯科の蔵野彰王先生（香美町／蔵野歯科医院）や同時期に在宅専門医として開業された濱上知宏先生（新温泉町／ぽかぽか在宅ケアクリニック）も話題提供されますので、食支援にとどまらず但馬の在宅医療の課題を幅広く交流したいと考えています。

藤井：大変楽しみにしております。本日はありがとうございました。

兵庫県保険医協会 但馬支部 第39回支部総会のご案内

2026年1月 但馬支部長 谷垣 正人

記念企画

但馬地域の在宅医療の未来を語る

日時 3月7日(土)

総会議事 15時00分～、記念企画 15時30分～、終了後懇親会

会場 アイティ7階 豊岡市民プラザ/市民活動室CD（豊岡市大手町4-5・JR豊岡駅前）

「アイティ駐車場」3時間無料、「市立駅前駐車場」24時間無料 会場窓口にて「駐車サービス券」発行

*Zoomによるライブ配信あり

話題提供 ① 濱上 知宏 先生（新温泉町/ぽかぽか在宅ケアクリニック）

「在宅ケアの充実で地域を強化する ～但馬で生ききるために～」

② 和田 陽介 先生（豊岡市/あかつきホームケアクリニック）

「リハ専門医が在宅医療を始めたら

～回復の可能性を見逃さない医療の現状と課題～」

③ 蔵野 彰王 先生（香美町/蔵野歯科医院）

「食支援のための口腔ケア」

定員 会場30人 参加費 無料（終了後懇親会・無料）

今回の支部総会は、但馬地域の在宅医療の現状を医科・歯科それぞれの立場から交流し、未来を展望する企画を開催いたします。話題提供は、昨年一昨年に訪問診療専門クリニックを開設された濱上先生、和田先生の若手のお2人の先生と、長年、訪問歯科診療の傍ら、ケアマネ業務も手掛けてこられた蔵野先生にお願いし、食支援と投薬・在宅リハビリテーションとの関係や看護師さん、薬剤師さんをはじめ、コ・メディカルの方との連携のあり方なども幅広く検討したいと考えております。Zoomでの配信も予定しております。院長先生はもちろんスタッフの方々もぜひご参加ください。

なお、終了後に懇親会を予定しております。あわせてご参加ください。

▼ご出欠をFAXにてお知らせ下さい FAX 078-393-1802 お問い合わせは、078-393-1809 吉永まで

兵庫県保険医協会 但馬支部 第39回総会（3/7・土）参加申込並びに委任状

■総会議事（15:00～） ご出席 ご欠席（議事を議長に委任する）

■記念企画（15:30～） ご出席（ 人） Zoom 視聴 ※下記申込をお願いします

■懇親会（終了後） ご出席（ 人）

地区 医療機関名

ご芳名

【Zoom 視聴の申し込み】下記URLまたは2次元コードからご登録ください。

<https://x.gd/zKhS9>

